

会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第二回 建築・インテリア系教育課程編成委員会	
開 催 日 時	平成 29 年 11 月 22 日 (水) 15 時 00 分～17 時 00 分	
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール、9 階 904 教室	
参 加 者	外部委員：5 名	内部委員・学内関係者：4 名
	＜外部委員：5 名＞ (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照) 大塚雄二 (公益社団法人建築家協会 大塚雄二都市建築設計事務所) 樋口修 (東京商工会議所中野支部／株式会社ヒグチ設計) 中山聡 (前田建設工業株式会社) 須永裕之 (清水建設株式会社 東京支店 生産総合センター) 宮脇伸歩 (株式会社 LIXIL) ＜内部委員：4 名＞ 杉本安雄 (同 建築監督科科长) 野上和裕 (同 建築科科长、議長) 鈴木昇 (同 建築科夜間(建築士専科) 科长) 高山寿一郎 (同 インテリア科科长、書記)	
会 議 録	＜第一部 系別分科会＞ 15:00～15:30 B1F テラホール 1. 学園側関係者挨拶 専門学校東京テクニカルカレッジ校長 高瀬恵吾 2. 委員のご紹介 3. 前回会議 (平成 28 年度第 2 回会議) (全体会議) 議事録確認 4. 平成 29 年事業計画進捗状況報告 ①基本方針に関する報告 ②厚生労働省委託授業に関する報告 ③ディプロマポリシー策定に関する報告 ④リアルジョブプロジェクトに関する報告 ＜第二部 系別分科会＞15:40～17:00 904 教室 1. 議長挨拶 (野上) 2. 前回 (系別分科会) 議事録の確認 (野上科長) 以下、前回の議事録を訂正・追記させていただきました。 ・一般階、特殊階 → 一般解、特殊解 ・大塚委員と鈴木科長の意見を、一部順番を入替。 3. 意見交換 ・建築監督科のディプロマポリシー (素案 6) の説明 (杉本科長) 科の人材目標として、QCDS (Quality (品質管理)、Cost (コスト管理)、Delivery (工程管理)、Safety (安全管理)) の 4 つの指標を取り上げている。 ・品質管理では、それぞれの工事の流れや管理のポイントを勉強する。 ・コスト管理では、コンクリートの発注量、見積で上がってきた仮枠量のチェックが出来るなど、部位別に拾えることが大切。コストコントロールを理解させる。 ・工程管理では、バーチャート工程表、ネットワーク工程表の特徴をつかんで使用出来るようにさせる。 ・安全管理では、労働安全法、労働基準法についても学んでいく。 ・建築科のディプロマポリシー (素案 6) の説明 (野上科長) 計画・法規・構造・施工を理解した上で木造住宅・鉄筋コンクリート造建築の計画が出来る技術者を目指す。	

- ・図面の読み、描きが出来た上で、自分の計画を表現・提案できる。
 - ・木造住宅の構造・施工をふまえた計画ができ、確認申請の作成ができる。バーチャート工程表が作成できる。
 - ・鉄筋コンクリート造・鉄骨造の構造・施工をふまえた計画ができる。2年次の内容。BIMの基本も勉強する。
 - ・1年次では、木造住宅のプロフェッショナルを目指す。2年次では、RC造、S造の計画が出来るよう学習する。
- ・建築科夜間過程のディプロマポリシー（素案6）の説明（鈴木科長）
計画・法規・構造・施工を理解した上で木造住宅・鉄筋コンクリート造建築の計画が出来る技術者を目指す（人材目標は、昼間の過程と大きな違いはない）。
- ・2年次になってから、一級建築士の試験範囲をベースにした設計課題を計画させる。卒業設計の内容は年内に終わらせ、年明けは建築士試験の科目を組んでいる。
 - ・夜間過程は、昼間と違い実習の時間が少ないので、パソコンの専門ソフトについても基本からではなく、実務に必要な技術を効率よく教えている。
- ・インテリア科のディプロマポリシー（素案6）の説明（高山科長）
インテリアを構成するエレメントを理解した上で、住空間をトータルに提案できる。
- ・図面の読み、描きが出来た上で、自分の計画を表現・提案できる。
 - ・インテリアエレメント・内装仕上げ材の特徴を理解して、インテリアコーディネートができる。
 - ・住宅を計画する上で基本事項をふまえて、住宅の計画ができる。
 - ・商業施設等の問題点を発見し、新たな空間の提案ができる。
 - ・インテリア科は、住宅を中心に勉強をしているので、住空間をトータルでコーディネートすることが出来る人材を目指している。
- ・昼間課程と夜間課程の目指すところで、夜間課程は一級建築士を前提にという話があったが、昼間課程は違うのか。
また、2年間の勉強の中に一級建築士の勉強を入れないといけないのか。（大塚委員）
- ・夜間課程は、2年間で一級建築士の試験範囲まで勉強しなければならない。構造の授業であれば不静定まで勉強をしている。初めは2級の木造の図面を描くが、一級の範囲の図面を取り入れ、描く図面の種類を増やすことによって手描きに慣れさせる。積極的に一級建築士の範囲を入れている。（鈴木科長）
- ・昼間課程は、直近の二級建築士の受験を見越している。構造の授業、設計の課題なども一級の範囲にも触れているが、一級よりも二級建築士を強調している。（野上科長）
- ・夜間は働かれている方も居るので、昼間と夜間ではその差があるのだと思う。（大塚委員）
- ・インテリア科のDPの中にある「照明・・・各種インテリアエレメントの特徴を・・・インテリア空間に活用することが出来る」の文言の中には、情緒的でデザイン的な色彩計画や照明計画を行うことなども含まれているのか。（宮脇委員）
- ・授業の中でも照明の配灯計画なども行っており、照明や色彩の効果をコーディネートできるということも、活用できるという文言の中に含まれる。（高山）
- ・夜間の学生は、今でも働かれている年配の学生が多いのか（樋口委員）
- ・審査機関や役所に勤められている方、CADオペレーター、文系の大学卒で現場管理をしている男性の学生がいる。（鈴木科長）
- ・建築監督科の就職先はゼネコンが多いのか。（樋口委員）

	・20名の卒業生がいるが全員大手（ダイワハウス・前田建設工業・清水建設・松井建設・五洋建設・能美防災など）に就職している。（杉本科長） ・建築監督科のDPの感想。実務の基礎は的確に網羅されていて問題ない。どれだけリアルに学生に認識されるようになるのかが学校の腕の見せ所。なぜVEが必要なのかなど、教員が意識しながら授業の中に実務の話を入れると、実務に対応する力が高まると思う。（中山委員） ・品質管理に関しては、躯体の品質管理について重点を置いたほうが良いと思う。 ・構造力学は、現場で分かると分からないとでは、仕事の幅が変わってくる。躯体の鉄筋、鉄骨も力学の知識が無いと管理が出来ない。 ・図面に関しては、見上図をやってきていない人がほとんど。見上図を実際に描かせることによって、設計図の読み方を理解することが出来る。躯体図を描かせる教え方が効果的だと思う。鉄骨の架構図、ALC割付図はあまり力を入れなくても良いと思う。余力があれば、矩計図、平面詳細図が出来ると良い。 ・コストについては、全体から細分化していく方向と細かいところから積上げていく、両方の面で教えられれば良いと思う。 ・工程管理については、標準工程を簡単に出すソフトがある。それを使われると良い。建物のボリュームが分かればどのくらいの配分の工程になるのかがわかる。 ・安全は難しい。労働基準監督署に提出する建設業計画届等の書類を教材にすると、役所が重点的に何を見るのかが分かる。（須永委員） ・建築科のカリキュラム変更 配布資料 A3 枚 （野上科長） ・1年生は木造住宅に特化した学習の勉強。確認申請を出せるレベルの図面を目指す。 ・2年生で、RC・S造に関する科目を行う。 ・伏図、矩計図のパターン演習を行い、どんな図面にも対応できるよう、コピー課題で終わらないようにしている。新カリキュラムでは、演習科目を増やしている。 ・伏図や細かな図面に力を入れ、より二級建築士に近づけていきたいと思います。 ・4号建物の問題がある。授業の中で4号建物とそうでないもの確認申請、構造計算、設計の違いを抑えておいてほしい。（大塚委員） ・二級建築士の合格率を上げる為のカリキュラムを変更、DPの作成、目的がはっきりしていて、効果を確認できるような形なので良いと思う。（中山委員） ・ブラッシュアップしたのは正解。新入社員教育で、色々教えすぎて新入社員が消化不良を起こしている。今はなるべく教えることを絞って消化出来ているか確認をしながら次に進んでいる。新カリキュラムも同じ方向性だと理解している。（須永委員） ・DPに関して、商品開発に置き換えると、QCDSはバランスが大切だと思う。一つ一つは大切だがトータルでのバランスが大切だと思う。（宮脇委員） 4. 次回日程（議長） ・平成29年度 卒業研究・卒業制作およびRJP学習成果発表会 平成30年3月14日（水）14時00分～17時00分 5. 閉式の辞（議長）
--	--

以上